



水道料金収入における基本料金と水量料金の割合

水道料金収入における基本料金と水量料金の割合は令和3年度で右図のとおり23.8%と76.2%です。

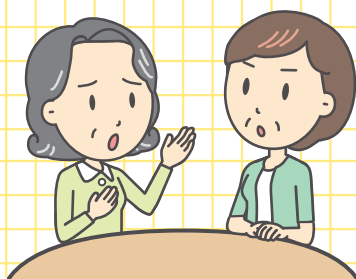
また、経営状況のシミュレーション(令和5年度から14年度まで)によるとさらなる人口減少と水の需要減少により、いま以上に厳しい経営状況が見込まれます。安定した事業を収益で賄おうとすると、基本料金の割合をより高くする必要があり、今後、料金体系の見直しを検討していきます。

水道料金収入における基本料金と水量料金の割合

基本料金
23.8%

将来引き上げも

水量料金
76.2%



上下水道局では、今後の経営のシミュレーションをしているのよ。ホームページを確認してみましょう。

上下水道局
ホームページは
こちらから→



水道事業運営にかかる支出をおさえるための取り組み

01

取り組み

民間委託によるサービス向上と業務の効率化

平成30年度から料金収納の窓口、令和元年度から浄水場の運転管理業務などを民間委託したことで民間事業者の優れたノウハウを活かし、サービスの向上と業務の効率化を図っています。



お客さまセンター

02

取り組み

施設の統合

2つ以上の配水池を統合することで、維持管理費用の削減に努めていきます。



けやき坂高区配水池

このような民間委託や施設の統合をすることは、市民サービスの向上に加え、業務の効率化が図れるだけでなく、コスト削減や人件費削減の効果もあります。水道事業の収益的支出の推移を決算数値でみると平成12年度は約40億円でしたが、令和3年度には約30億円まで抑えられています。

これからも生活に欠かせないライフラインとして、安全で安心な水の供給に努め、「あたりまえ」を守っていきます。水道事業を取り巻く現状について、今後も広報誌でお伝えします。

市上下水道局広報誌
「清和水～KIWAMI」→



これからも注目して、上下水道の広報誌をしっかりと読まないとな。

